事務所のあり方考える

第2回 職域超えて4氏がリレートーク

石川県建築士事務所協会

第2回リレートークの様子＝金沢

石川県建築士事務所協会（小林正澄会長）は19日、金沢市野町の金沢未来のまち創造館で第2回リレートーク「建築士事務所のこれから～職域を超えての座談会」を開き、それぞれ建築という大枠の中、業態の違うゲスト4氏をスピーカーに招き、これまでの経験や各社における経営の取組などを紹介し、建築設計界の未来について次世代を担う若手経営者や事業立ち上げを目指す若者らと意見を交わした。

この日は約20人が参加。冒頭、司会を務める山岸敬広専務理事が「協会正会員が現在316社ある中、開設者・管理建築士で50歳以下の会社が約80社あった。今後建築業界がコロナや少子高齢化で変化していく時代に、どのようにして事務所を運営していくのかについて、建築士事務所といってもいろんなジャンルがあることから、それぞれの立場や目線でどのような取り組みを行っているのかを話してもらい、今後のヒントにしてほしい。年3回座談会を行い、できれば80社の登壇を目標にしたい」とリレートークの趣旨と今後の予定を説明した。

この後、トークに移り、高橋雅樹氏（中村住宅開発）が会社と自身が歩んできた成長と進化の過程を紹介。会社に入社してから現場経験を積み、当時の社長で現会長の中村久雄氏からモデル住宅の担当を任され、現場で原寸大の模型を製作して決める会長のやり方から「図面だけでは気付けないことを学んだ」と振り返った。また、これまで住宅分野だけを意匠のヒントとしてきたが、管理建築士となって2014年に開業したホテル「アマン東京」での宿泊体験をきっかけに、現社長の鍋谷一貴氏に「ホテルなど公共建築も意匠の参考に取り入れたい」と提案。鍋谷社長自身もホテルに赴き体験した結果、「社長から賛同が得られたことで公共建築からも取り入れるようになり、その結果、顧客からも多くの好評を頂いた」と語った。こうした社長のフットワークの良さがVRや工芸の活用などいち早く時代の先端を取り入れ、顧客に次々と新しい外観デザインなどを提案し進化を続ける事業展開を紹介した。

続いて四辻靖信氏（RSアーキ一級建築士事務所）は、建築積算業界の状況や積算事務所の業務内容を説明。積算事務所にはゼネコンを得意先に民間建築物、設計事務所を得意先に公共建築物を積算する2種類に分かれ、北陸の事務所は「ゼネコンに勤務していた人が多く65歳以上がほとんど」と説明。個人事務所設立のきっかけは、春から夏前に工事関係の仕事をして夏前から年度末までの積算の仕事を両立できるとの考えで独立。実際は繁忙期が重なってしまい思い通りにはいかなかったが「積算の仕事ができたから事務所を14年続けることができた」と語り、独立を考える人には「意匠、構造だけではなく別の領域も覚えた方が良い」とアドバイスした。

漆崎義和氏（金沢計画研究所）は、金沢工大建築学科の水野一郎研究室に入ったことが「人生の岐路」と語り、大学院に進んで自分の実力を試したいとの思いからいろんなコンペにも参加。事務所に入所してからは「コンペから基本設計、実施設計、メンテナンスまで基本的には全部一人で担当するのが仕事のスタイル」と説明。「所長の立場で業務効率を考えると非効率」としながらも「自分が発想したものが形になり、リアルに出来ていく醍醐味が味わえる。いろんな現場の監督を任され、さまざまな職種の人たちと触れ合うことで自分の成長に繋がった」と説明。仕事で大切にしていることは「自分の設計した建物に魂を宿すという気概で取り組むこと」と強調。設計のスタンスでは最近のアーキテクチャーツーリズムを背景に「一介の建築士としてだけでなく建築文化を担っているという思いをいつも感じながら仕事をしていきたい」と語った。

真柄卓司氏（真柄建設）は東京理科大学工学部建築学科卒業後、東京の大手ゼネコンの現場管理業務を経て02年に同社に入社、17年から代表取締役社長に。現場監督時代で上司からの言葉で印象に残っているのは「設計図書通り造ったと言い訳をするな」と語り、その理由を「設計事務所が描いたものを全力で実現した上で、トラブルの発生が想定される場合はどこまで譲れるかしっかりと設計事務所と協議すべき」と話し、ゼネコンの技術者としてのプライドを持って仕事に励むよう教えられたと振り返る。また会社が設計部を置く理由について「設計で利益を上げようというものではなく、あくまで現場の後方支援や品質管理の面と有利な条件で受注をするため」などと説明した上で「施工者側の技術や材料がかなり進歩する中、顧客の立場である設計事務所の皆さんと我々施工者の立場としての設計部がタッグを組めばより良いものができる」と今後の連携強化に期待を寄せた。

引き続き、参加者を交えての全体トークに移り、建築積算へのアプローチの仕方、VR設計の導入、5、10年先を見据えた業態転換など今後の事務所運営のあり方、故郷に対する思いなど幅広い話題について活発に意見交換した。

©「日刊　建設工業新聞」　発行所　（株）北陸工業新聞社（本社：石川県金沢市）